

小地域におけるオーバーツーリズム傾向の評価と可視化

鈴木英之

Assessing of 'Overtourism' at Small Areal Levels

Hideyuki SUZUKI

Abstract: Along with the increase in tourists visiting Japan, some tourist destinations are inundated with tourists exceeding their capacity. It had a negative effect on traffic congestion and the living environment. And the problem of so-called “overtourism” is becoming apparent. In this study, we confirmed the relationship between the excessive concentration of tourists and the negative effects they brought about using SNS and review data. The overtourism tendency and its risk were evaluated in a small area.

Keywords: 観光公害 (tourism pollution), オーバーツーリズム (overtourism), 宿泊旅行統計調査 (accommodation survey), ジオタグ (geo-tag), オンラインレビュー (online review), フリッカー (Flickr)

1. 背景

近年、訪日旅行者の急増に起因して、混雑やマナー違反等のいわゆるオーバーツーリズムの問題が顕在化しつつある。観光庁は「現時点においてオーバーツーリズムは広く発生するには至っていない」と判断する（観光庁、2019）ものの、地域の観光マネジメントにおいて、今後の状況変化に備え、このテーマにかかる現状把握のための基礎資料が求められる。

2. 研究目的

本報告は、観光レビューデータ等から、オーバーツーリズムの状態を指標化する実用的方法を検討することを目的とする

従来の調査・研究は、基礎自治体もしくはそれよりも大きな空間単位を対象としているのに対して、本報告は、POI（観光スポット）別のレビューデータや位置情報付き SNS データを利用するこ

とで、それより小さな空間単位を分析対象とし、自治体において過密観光の空間的分散化や時間・季節的平準化等のオペレーション最適化の検討資料を提供することを意図する。

なお、本報告ではオーバーツーリズム（以下 OT）という語を、過度な訪問客数が観光地に及ぼす（居住者や訪問者の体験の質の低下等）負の効果、という一般的な意味で用いる。

3 先行する調査・研究

UNWTO (2018) によると OT は米 Skift 社による 2016 年の造語とされるが、観光研究において、OT に関連する概念は、乱開発に対する環境破壊を引き起こさないための収容力容量の推定や計量評価の問題として古くから論じられてきた (Parpairis A, 1993) .

3.1 OT 指標

欧州議会は、OT の計量法について複数の指標の有効性を検討した。結果として宿泊者数の密度及び居住人口比を含む 8 指標が統計的に意義を持つことを確認した (Peeters, P.M. et al., 2018) .

3.2 既存 OT 指標の限界

UNWTO (2018) は、OT 現象に対して、それが単なる訪問者数の物理的な問題ではなく、住民の寛容度や旅行者の主観的満足度に左右され得る地域の「キャパシティ」に関する問題であることを指摘している。こうしたアセスメントは既存統計に多くを頼る従来の方法では困難だ。UNWTO はまた OT が市全域の問題ではなく局所的に発生する問題であることも指摘する。勿論、既存統計にて小地域の状況を評価することは難しい。

4 方法

既存 OT 指標による評価の欠点を補うために、本報告では、トリップアドバイザーに投稿された旅行レビューデータを利用する。

まず国内において OT が懸念される都市・地域（京都市、鎌倉市、富士山等）に対するレビューの中から OT と関連するとみられる単語「混雑」又は「外国人」が含まれるレビューを抜き出し、OT 的な状況を記述しているとみられる表現および単語等を目視にて収集する。それらの中からレビュースコア（それぞれのレビューには10～50の5段階の点数が付されている）に対してネガティブな効果を与えている表現または語を厳選し、「OT 表現・語群」とする。

「OT 表現・語群」が含まれるレビューを「OT レビュー群」、含まれないレビュー群を「非 OT レビュー群」とする。この時、各観光スポットにおける OT レビュー群と非 OT レビュー群のレビュースコアの平均の差は、当該スポットにおいて OT がレビュースコアに与えた減点効果とみなすことが出来る。この減点効果に OT レビュー数を乗算したものは当該スポットにおける減点効果の総量となる。これを OT 効果量と呼び、地域や地区、観光スポットにおける OT 傾向の指標とみなす。

5 結果と考察

5.1 OT 表現・語群

まず、OT 表現・語群を特定した。収集した日本語によるレビュースコアの全数 (n=1,497,935) の

平均は 40.97 である。スコアを押し下げる効果を持つ表現若しくは語を合計 95 種類収集した。表 1 はそうした表現・語の例である。

表 1 OT 表現・語群の例

N.	OT表現	レビュー数	スコア平均
2	我が物顔	53	34.15
5	爆買	119	35.55
13	インバウンド	392	36.73
15	人だらけ	622	36.82
16	自撮り棒	115	36.87
20	マナー	1484	37.05
34	観光地化	1641	38.02
38	ごった返し	2956	38.56
46	団体	5589	38.86
49	観光客	38528	39.00
50	人が多	11125	39.00
51	大型バス	618	39.08

5.2 OT レビュー群と非 OT レビュー群

OT 表現・語群を含むレビューを OT レビュー群、そうでないものを非 OT レビュー群とし、スコアの分布を示したのが図 1 である。

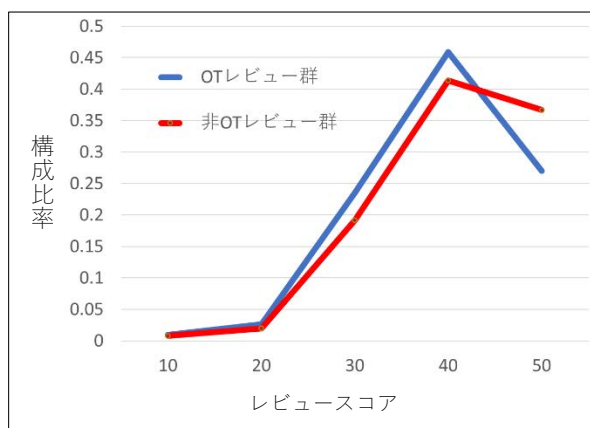


図 1 レビューのスコア分布

OT レビュー群は、非 OT レビュー群と比較して観光体験の質や満足度が低くそのため 50 点（最高得点）が付されたレビューの構成比率が低いことが確認される。

表2 地域（自治体）別 OT 効果量（左），観光スポット別 OT 効果量（右）

	地域	OT率	減点効果	OT効果量		観光スポット	OT率	減点効果	OT効果量
1	大阪府中央区	7.9%	4.35	14781.03	1	伏見稲荷大社	7.7%	3.83	6896.24
2	京都市東山区	11.5%	2.24	12124.54	2	黒門市場	12.3%	8.55	6297.85
3	台東区	11.1%	2.09	8370.40	3	錦市場商店街	11.2%	6.80	3923.34
4	金沢市	14.4%	3.43	8315.41	4	清水寺	11.0%	3.13	3848.88
5	京都市伏見区	8.3%	3.47	7779.75	5	浅草寺	14.3%	2.91	3631.53
6	京都市中京区	7.2%	4.43	7016.17	6	心齋橋筋商店街	11.0%	6.65	3478.76
7	渋谷区	8.0%	4.35	6851.49	7	近江町市場	20.6%	4.80	2828.51
8	札幌市中央区	9.5%	2.71	6344.30	8	竹下通り	8.0%	7.34	2452.35
9	鎌倉市	16.3%	2.52	5649.61	9	USJ	9.9%	2.34	2367.88
10	新宿区	8.6%	3.38	5244.17	10	東京スカイツリー	9.5%	2.84	2031.27
11	那覇市	12.9%	2.25	5053.09	11	国際通り	24.7%	3.23	2009.15
12	奈良市	8.2%	1.64	4112.44	12	築地場外市場	27.8%	4.17	1875.88
13	中央区	10.2%	2.18	4048.05	13	浅草	9.8%	3.21	1847.53
14	神戸市中央区	10.0%	2.23	4003.68	14	白川郷合掌造り集落	19.0%	4.75	1842.94
15	港区	6.3%	1.84	3770.10	15	金閣寺	5.5%	2.03	1842.23
16	京都市右京区	10.2%	1.52	3751.68	16	渋谷センター街	13.9%	11.50	1794.16
17	足柄下郡箱根町	9.1%	2.19	3166.92	17	沖縄美ら海水族館	14.2%	2.38	1780.03
18	京都市左京区	11.0%	0.97	3045.68	18	兼六園	10.7%	3.05	1766.53
19	墨田区	9.1%	2.10	2975.76	19	日光東照宮	16.5%	3.41	1749.46
20	函館市	14.7%	1.16	2830.41	20	三年坂 二年坂	17.3%	4.13	1635.97
21	京都市下京区	7.8%	2.92	2776.95	21	大阪城	5.5%	1.96	1622.49
22	大阪府此花区	10.1%	2.32	2718.88	22	祇園	5.5%	3.98	1541.08
23	日光市	11.1%	2.15	2528.30	23	東茶屋街	21.0%	2.70	1383.83
24	広島市中区	4.7%	2.48	2519.05	24	海遊館	4.9%	4.33	1359.36
25	小樽市	13.1%	2.74	2489.99	25	鎌倉 小町通り	33.8%	4.69	1354.66
26	大野郡白川村	16.2%	4.47	2395.27	26	ミナミ（難波）	12.2%	5.63	1333.37
27	由布市	16.4%	5.23	2200.46	27	嵐山	8.6%	2.45	1322.82
28	京都市北区	6.9%	1.52	2148.68	28	上野公園	6.5%	4.01	1318.28
29	北佐久郡軽井沢町	18.9%	2.60	2110.89	29	忍野八海	41.3%	4.05	1312.93
30	福岡市博多区	9.9%	2.65	1940.36	30	銀座	7.9%	3.44	1246.58

5.3 OT 効果量

OT 傾向を示す指標としての OT 効果量を基礎自治体および観光スポット別に算出した(表 2)。「OT 率」は OT 表現を含むレビューの比率,「減点効果」は非 OT レビュー群と OT レビュー群の平均スコアの差を示す。一般的にレビュー数が多ければ,それに応じて OT レビューの数も増加するため OT 効果量は増大する。そのため有名観光地(観光スポット)が上位に並ぶことになる。ただし, OT 率および減点効果は地域スポットによって様々だ。

5.4 小地域における OT 効果量

減点効果と OT 効果量の意義について,更に検討するために,小地域集計の結果をもとに考察する。対象としたのは京都市街地内の各観光地区で

ある。京都市「京都観光総合調査」による観光地区区分に従い,観光客数の多い順に 10 地区を選定し,Flickr の撮影地点の空間分布を参考にそれぞれの地区の範囲を画定した(図 2)。

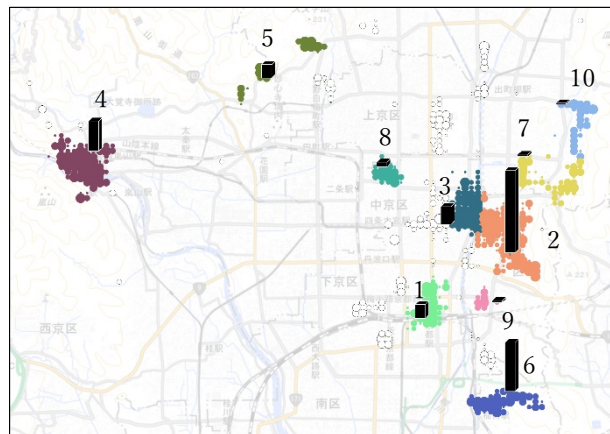


図2 京都市の観光地区と OT 効果量

表3 京都市の観光地区別 OT 効果量

	地区	Flickr数/面積	非OTスコア	OTスコア平均	OTレビュー数	OT率	減点効果	OT効果量
1	京都駅周辺	50.54	42.29	38.11	476	6.2%	4.18	1989.05
2	清水・祇園周辺	58.26	42.96	40.16	4211	11.3%	2.79	11754.19
3	河原町三条・四条周辺	44.42	41.56	38.22	757	8.8%	3.35	2533.98
4	嵯峨嵐山周辺	45.06	42.73	40.46	1892	9.4%	2.27	4302.42
5	きぬかけの路周辺	69.61	44.34	42.77	1232	6.1%	1.57	1938.59
6	伏見周辺	65.94	46.16	42.33	1823	7.7%	3.83	6984.02
7	岡崎・蹴上周辺	27.12	42.99	42.71	1024	11.5%	0.29	292.03
8	二条城・壬生周辺	41.33	43.08	40.43	258	3.7%	2.65	684.02
9	東山七条周辺	22.22	44.12	43.49	473	8.6%	0.63	297.43
10	銀閣寺・哲学の道・百万遍周辺	34.25	43.02	42.74	682	7.4%	0.28	191.38

それぞれの地区内に含まれるPOIのレビューを再集計することで、地区におけるOT効果量を算出した(表3)。

最もOT効果量が高いのは、清水・祇園周辺地区、次いで伏見周辺地区、そして嵯峨嵐山周辺地区と続く。清水・祇園周辺地区は、京都市内において最も多くの観光レビューが集中する地区であり、しかもOTレビューの比率が高いため大きなOT効果量を示している。

伏見稲荷を中心とする伏見周辺地区は、嵯峨嵐山周辺地区やきぬかけの路周辺地区(金閣寺、龍安寺等)のような他の有名観光地区と比較しても、減点効果が大きく働いている。Flickr写真撮影数の分布密度からみると、特定の狭い範囲に観光客が過密状態で集中している様子が観察できる。当該地区のこうした空間特性が減点効果に影響している可能性が考えられる。また、静謐や情緒的な価値は、OTによって容易に毀損され、しかもそのダメージは小さくないものとみられる。そうした価値が重視され、期待される観光地区は、他の地区に比して、OTによる満足度低下の影響をとりわけ受けやすい観光スポットとすることが出来るのかもしれない。

6 まとめ

本報告では、観光地におけるOT的な状況に対するネガティブな観光レビューの書き込みを手

がかりに、地域や地区におけるOTの現状を把握する方法を検討した。今回OTに関する表現を含むレビューは全てひとくくりにして指標化を進めたが、OT状況をその種類によってパターン化し分類して議論をすすめるなど、更により精緻な分析が求められるものと思われる。今後の課題としたい。

参考文献

- 観光庁, 2019. 「持続可能な観光先進国に向けて」, <https://www.mlit.go.jp/kankocho/news08_000281.html>
- Parpairis A, 1993. The concept of carrying capacity. Ph.D. dissertation, Department of Environmental Studies, University of the Aegean, Mytilene
- UNWTO, 2018. 'Overtourism'? –understanding and managing urban tourism growth beyond perceptions.
- Peeters, P.M., Gössling, S., Klijs, J., Milano, C., Novelli, M., Dijkmans, C.H.S., Eijgelaar, E., Hartman, S., Heslinga, J., Isaac, R. and Mitos, O., 2018. Research for TRAN Committee-Overtourism: impact and possible policy responses. European Parliament, Directorate General for Internal Policies, Policy Department B: Structural and Cohesion Policies, Transport and Tourism.